

# 高退協ニュース

## 大いに学んだ夏季学習会

### 講師に島本さん、小島さん

二〇〇八年度夏季学習会は八月二十一日(木)、高知城ホールにて、昨年より四名多い四十六人の出席で開催されました。

最初の講座は、島本理夫さんの『「金がない」とは言わせない「社会保障を支える埋蔵金を探る」』と題しての講演で、豊富な資料を基に、後期高齢者医療制度について、

「このような高齢者だけの保険制度は世界で初めて」と述べた上で、「先進国で社会保障への国庫支出を減らしたのは日本だけである。また、日本は国民に高い負担だけを負わせ、還元していない」と述べられました。そして「金がない」と言っているが、ムダな公共事業の見直し・国債

地方債支払い利子の縮小・世界第二位の軍事費の見直し・特殊法人の整理統合・ODAの見直し・政党助成金の廃止等々で社会保障費の財源は充分ある」と述べられました。どこにどのような金があるのか具体的な理解できるお話でした。

続いての講座は、小島真子さんの「南半球ひとめぐり」と題しての講演で、今年一月十二日に日本を出発し、四月二十八日に帰国するまでの百八日間、九百四十名の仲間と共に「国際交流NGOピースボート」に参加し、香港・ベトナム・ニュージーランド・アフリカ・ブラジル・アルゼンチン・フオークランド・タヒチ等々を訪れ、現地の人々と交流し、世界の平和や地球の温暖化等々、様々な問題について見聞を広められた経験をお話されました。

最後に、小島さんが「帰ってきてリヤはり高知はいいなあ」と思った。と語っていたのが印象的でした。それ

は、共に語り合える多くの仲間が居るから」という意味のようでした。

旅行中の写真はすべてDVDに収められ、山本圭一さんによりスクリーンにて投影されました。七十歳を迎えてなお、地球を一周するようなプログラムの参加した小島さんの意欲と行動力に、出席者一同感嘆の声しきりでした。

島本さん、小島さん共に、内容がグローバルで、参加者一同目を大きく世界に開くことになったようでした。

また、夜の懇親会には、二十四人が参加し、和やかに懇談しました。(土居 M)

高知高退協事務局  
2008.9.2  
No.154

高知県高等学校退職教職員協議会  
高知市丸の内2丁目11-10  
TEL 088-1822-1682  
01650-1211-1893  
郵便振替口座

**草声** 教員採用試験で0点の受験者に20点を与える。受験者の親は県教委に百万円を渡す。大きく分け与えるから、大分県教育委員会という。ある宴席で「おまんらもうじやなかつたかよ」と言われた。酒のうえでの冗談とは言え、誠に心外である。しかし大分をきっかけに全国の教職員人事異動が疑われていることは確かである。高知県も完全な潔癖ではない。県会議員の問い合わせに新採用の可否を答えていたと言う。議員も次の選挙の一票になるから問い合わせるのであり、教育委員会吏員も自らの地位保持または拡大につながるから答えているのである。議員の後見で採用になると、議員の顔を立って組合へ加入しない。職員会でも正しいことを堂々と主張で

きない。ごますり発言になる。このような陰湿な雰囲気は理想を語る教育を墮落させる。大分県の不正が発覚した直後、私も高退協の会員から「ある若い社会科の教員が、南京虐殺事件はでつちあげで太平洋戦争は侵略ではない」と言い、その他彼の言動を見ても教育者にふさわしくない、どうして採用になったか調査しては」との話があった。彼の採用に議員の口利きはなかったかもしれないし、商品券も動いていないであろうが、県教委も人間を評価するのは難しい。ドイツの社会学者であるマックス・ウェーバーは「没主観」を述べた。主観を入れないと言うことである。オリンピック競技なら好きな選手を応援して、ひがちなれば良い。「好きな」というのが主観である。ただし審判は主観を加えてはいけない。口利きや商品券で判断が左右するのは主観が介入することになる。(三谷)

### 原稿募集「こうたいきょう」

内容 随筆 研究論文 紀行文 活動報告 小説 短歌 詩 俳句 川柳 その他  
字数 約1000~3000字  
締切 2008年 11月 15日  
送先 〒780-0850

高知市丸の内2丁目1-10  
教育会館内 高教祖気付  
高知高退協

機関誌の原稿を募集します。最近腹の立つこと、思い出話、孫の成長ぶりなども載せます。文章を書くと脳が若返ります。同封の「会員近況」にも切手を貼って投函願います。

### お知らせ

#### 温泉旅行

期日 2008年10月15日(水)  
行き先 赤岡絵金蔵  
野市町高知黒潮温泉  
費用 3,000円

#### 親睦旅行

期日 2008年11月6日(木) ~7日(金)  
行き先 大阪府堺市周辺  
仁徳陵、茶室、妙国寺  
千利休屋敷跡、刃物伝統産業会館  
与謝野晶子生家跡など  
費用 34,000円(一人当たり)

\* 温泉昼食会、親睦旅行の詳細は案内を同封します。

#### 誤植のお詫び

七月の便りにいくつか誤植がありましたことをお詫びします。まずニュースで西田令子さんの退任のあいさつです。「会員も四十三名余り」となっていました。正しくは「会員も四百十三名余り」です。原稿は正確でしたが、編集の段階で間違い、校正で見落としました。同じくニュースのお知らせ欄で開催期日の年です。2000年とか2000年になっていました。が、いずれも正しくは2008年です。

七月同封の温泉昼食会のご案内は2008年になっていました。これは何回も校正しましたが、思い込みが強く間違いを発見できませんでした。

ばあさんが  
校正してもミスばかり

# 今、高教組は

倉橋楠雄

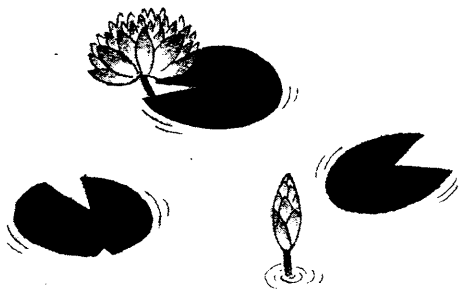
八月一日、人事院は一般職国家公務員の給与等の勧告と報告を行いました。

公務労組連絡会は、人事院にたいして「生計費原則に基づき、物価高騰に見合う勧告。地方切り捨ての持ち家に関わる住居手当の廃止や本府省手当の導入反対。非常勤職員のガイドラインは、水準の引き上げとともに『最低限度額』の明記する」との要求を行ってきました。

今回の勧告の内容は、官民格差一〇・〇四%、一三六円一で民間とほぼ均衡しているとして月例給の改善を見送り、一時金も据え置くなど、一昨年の「ベアゼロ」勧告に再び引き戻してしまいました。そして、自宅に関わる住居手当の廃止は見送りましたが、民間と比較して明らかに低水準にある初任給水準すら改善を見送り、本府省業務調整手当（霞ヶ関など中央官庁に限定して「いわゆるキャリア」課

長補佐以下すべての職員に支給するもので、民間でも類のない手当であるとともに、中央・地方の賃金格差をさらに拡大するもの）の新設を強行しました。一方、公務の所定勤務時間「二日七時間四五分、週三八時間四五分」への短縮が勧告されました。また、非常勤職員の「給与決定に関する指針」を示し、それに沿った改善を各省に求めていくことにしています。

私たちは、今回の勧告が、年間総労働時間・拘束時間の短縮として速やかに具体化され、教職員の長時間過密労働の是正に著実につながるよう運動を進めます。そして、非常勤職員の賃金・労働時間については、人事院は初めてガイドラインを示し、今後の処遇改善を進めていく上での第一歩となりました。今後、今回のガイドラインが、学校現場で働く臨時・非常勤教職員の処遇を引き上げるために、高知県においても改善点が具体化されるよう要求していきます。



## 退任挨拶

河村 幸恵

今年も暑さ厳しい夏でしたが、会員の皆様お変わりありませんか。

平成十四年に退職し、高退協の役員を引き受けてからはや六年もたつてしまいました。たよりや会計の係等、諸先輩の方々から指導していただき、いろいろ勉強させてもらいました。どうもありがとうございました。心苦しく思っています。

皆様のこれからのご健勝とご多幸をお祈りして、退任の言葉とします。



## 新任挨拶

田村 昌子

定年退職後、三年目が過ぎつつあります。

このたび、高退協の事務局の仕事にさせていただきました。ことになりました。

卒寿を過ぎた母親の介護が中心の生活のため、時間確保などの面で、十分なことができないか不安でありましたが、外の風も吸わんといかんと思ひ、できる範囲で努力したいと思っています。

若い頃、想像すらしなかった「格差社会」や「医療制度の改悪」など、若いも若きも益々、生きづらい殺伐とした世の中になりました。憂いと憤りの思いがいたしています。

この機会に、高退協の歴史を築いてこられた多くの先輩方や仲間へ学び、連帯しながら、高退協の一層のパワーを共有できればと願っています。未熟な者ですが、よろしくお願いいたします。

## 伊吹山への花の旅

八波 聖子

四国に梅雨明け宣言が出された7月上旬、伊吹山への花の旅をした。

伊吹山は滋賀県と岐阜県の県境に位置し、高山植物の花の山として有名。一度は行ってみたいと思っていた。標高1377m。5月には残雪もあるとか。どの季節の花にも魅力を感じるが、今回は春と夏の花が楽しめた。関が原古戦場を右にして、いよいよ伊吹山ドライブウェイに入る。バスは標高1260mの駐車場まであえぎながら登る。早くも道端に、ギボウシ、ホタルブクロが姿を見せる。

駐車場から標高差100mの山頂まで3本の遊歩道がある。西遊歩道(40分)に行く。初めは右が崖。左にお花畑なので首の運動は忙しくない。が、すぐ両側が花になる。シモツケ、アザミ、トラノオ、エンドウなど、名も知らない花々が競い合って咲いている。上に「イブキ」の名がつく固有種が多い。全山花。これほど多いのは、藩の薬草園として保護されていたからかもしれない。

シモツケとアザミのピンクの違い、白、紫も花ごと

## 新任挨拶

井垣政利

退職以前から「早うやめや！現職よりもずっと楽しくておもしろい仕事があるぞ」と何人かの人から顔を合わすたびに言われた。

その「ずっと楽しい、おもしろい仕事」が高退協の役員であった。現場の管理職・統制が厳しくなる中、現職の教職員の間には、嫌な

秀田気が広がっている。嫌な一方で退職し高退協に入るとみんな元気で生き生きとしてる。「高退協が一番元気だな」と日頃から感じていた。それが顔に表れていて、それで高退協の事務局のメンバーに白羽の矢を立てられたのだから。

四月に入り、大先輩のM先生から電話があった。「事務局メンバーに入れておく。二六日の総会に参事をするまもなく、直ぐに「それじゃあ」と言つて「ガチャン！」と相変わらずだ。と現役時代以上の元気に苦笑(M先生とは誰かご想像を。.)と

にグラデーシオンを奏でる。どの花も色がさえざえと深い。同じ花でも低地より高地で咲く花の方が色が鮮やかなのはなぜかといつも思う。

山頂近くの峠から琵琶湖が見えるというが、この日はあいにく曇り。足下の雲に隠れている。この峠は昔、物々交換の場でもあったという。高知県で、山頂近くに集落があるのを不思議に思い聞いたとき、「昔、人は空から来た」という古老の言葉が耳にある。山々の峰を廻る道は山裾の道より便利だったのだから、それにしても、ここでの物々交換は、花々に囲まれてより賑わったことと思う。少し休み、東遊歩道(60分)を下る。ニッコウキスゲの群落が新たに目えてくる。黄色が今までの花々の中で映える。視覚が上からなるので、登りよりいっそう花の中にいる感じが強まる。このコースは道巾が狭く、石灰岩がとびだしていたり歩きにくい。そのせいか人が少なく、私はより嬉しく、お花畑を満喫して下る。命がのびる思いだ。今度は春か秋、違う花に会いに行きたい。

まあこんな具合で常任委員に参つたね、高退協「青年部」の一兵卒としての「仕事」が始まった。

バラエチイにとんだ取り組みを、精力的にこなすそのバイタルチイ。これが、リタイアしたものが片手間に出来る「仕事」ではないぞと「カクゴ」する。こうなりや「やるっきゃない」。私も体力的にはそれなりに自身が有る。自らも楽しんでみながら新風を吹き込むべく頑張ります。どうぞよろしく！

## 活動日誌

- 【七月】
- 一四日 事務局会
- 二七日 人権共闘総会
- 【八月】
- 五日 事務局会
- 一五日 平和を考える集会
- 二二日 夏季学習会
- 二七日 四プロ代表者会

老 眼 鏡

千利休 無言の前衛

赤瀬川源平著 岩波新書

特に茶道に関心が無い人でも、利休の名を知る人は多いでしょう。村田珠光、武野紹鷗に続き、侘び茶を完成させた人物としてよく知られています。

その利休の「侘び」の思想は、実は私たちの家にある和室の意匠に引き継がれています。

茶室、中でも「侘び」の思想を凝縮した草庵茶室の意匠は、華美な装飾を取り除き、素材のあるがままの美しさを追求した引き算の美学だといえます。

それまでの貼り付け壁に、違い棚や方形の床柱と漆塗りの床框などで構成された格式を重んじた「真の床」(フォーマルな床)を持つ書院広間での茶の湯は、高価な唐物(輸入品)の茶道具を用いて自らの権力と財力を演出する空間でした。

しかし、利休は、京都山崎の待庵に見られるように「小間」と称される小さな空間を、「国焼き(国産品)などの素材な茶道具が似合

うように計画しました。具体的な例をいくつか挙げてみましょう。

まず、草庵茶室の特徴として最もよく知られているものに、にじり口があります。大ききわずか六十五センチ四方に満たない小さな入り口は、茶道に関心の無い人でも著者の言う「前衛的」な反権力としての意図が感じられます。そして、そのにじり口に使われる板戸の構造にも実に興味深いメッセーじがあります。

次に、畳にも工夫がこらされました。殿中などで「貴人」に献茶する際に使われる台子(棚)の幅の分だけ手前畳を切り取り、意図的に台子を使えなくした台目畳が考案されました。

また、床も壁を土壁とし床柱や床框に皮や節のある材を用いることによって全体の意匠を格式を表現しない「草の床」(カジュアルな床)としました。

さらに、壁は仕上げの塗りを行わない荒土壁とし、窓は壁の一部を塗り残して下地の骨組みを見せた下地窓とするなど、山里の民家風の「侘びた」たたずまいとしました。

利休は晩年「私が死ねば茶が廃れる」と言ったと伝えられます。茶道は今日もその子孫や弟子達に引き継がれ広く楽しまれています。しかし、著者の感じた反権力の「前衛」としての利休の精神が継承されているかは疑問が残ります。

松山和雄

健康法

痛い、腕が上がる、首が回らない、顔の向きに身体がついてくる。昨夜酔っぱらってうつ伏せに寝たせいなのか。2、3日様子を見てみるが、いっこうに良くならない。しぶしぶ整形外科へと足を運ぶと、直ぐにレントゲン写真を撮られて病名がつく。「これは首の骨の間隔が縮まり神経が圧迫されています。」「どうすれば治りますか」と聞く。「加齢が原因です、薬を2週間分だけしておきます。3時間も待たされ5分の診察で、年のせいだと言われる。薬の内容は、痛み止めとビタミン剤。首の骨の間隔が短いのは生まれつきだ。マニユアルどおりの診断には納得がいかない。2週間ほど薬も飲まずに我慢して

いたら、首はまわるし、痛みもなくなった、若返って骨の間隔が伸びただろうか。朝5時、まだ薄暗いうちに、畑に出て、雑草の中に見え隠れする野菜の生長をながめる。今年はじめて実をつけた種あり葡萄をほおぼり、持病の腰痛が悪化していないのを確かめながら、毎朝3時間の農作業をする。腰痛を治すべくスポーツジムに通ったが、あのエネルギーで畑を耕し、野菜を収穫するほうが合理的。温室にはいつて、作業をすれば、サウナ風呂、冷水を浴びれば、気分は鯉のあらいだ。手が足りないだけかもしれないのだが「無消毒有機栽培の自然農法だ」と胸を張る。虫が食べ残したキャベツやレタス、270度以上も曲がったキュウリ、割れ目の入ったトマト等、鮮な野菜はどれも甘くておいしい。こんな自然ですばらしい日本の農業が成り立たなく立ったのは、誰のせいだ。農産物輸出国(アメリカ)の事情に振り回され、自給率が40パーセントを切り、トウモロコシの値上がりに悲鳴をあげる日本。メタボの心配をするなら、毎日の

やっど白山へ

この夏、古来より富士、立山と共に日本三名山の一つとして知られてきた加賀の白山に、やっど登ることができた。この白山は信仰の山として昔から登られてきたので、登山路は多い。私たちが辿ったのは石川県側から登り、岐阜県側に下るコースで、以下が三泊四日の山行点描である。一日目。金沢を経てJ.R.、私鉄、バスと乗り継ぎ白峰温泉へ。手取川上流の国立公園内の民宿に宿をとる。途中で見かけたロックフィル・ダムは圧巻。また夕食の料理も鄙に稀なる味であった。二日目。早朝、バスで登山口の別当出合へ。吊橋を渡つ

て、いよいよ山道にかかる。急峻な石段の連続。登りに弱い小生は数十歩登っては呼吸を整え、多くの登山客に道を譲りながら、やっどと甚之助小屋から十二曲がりの難所を越えて弥陀ヶ原に達す。この辺

秦東寺残月日記  
坪井 幹之

りには有名な高山植物の花園地帯。ハクサンチドリを始めハクサンの名を冠した植物は三十種類に及ぶそう。残念ながら博物音痴の吾が身には無縁。木道、雪渓、五葉坂の名勝地を過ぎ、やっど宿泊地、

室堂に着く。標準は四時間半であったが七時間近くかかっていた。早速、ピジターセンターで宿泊の手続きを済まして、ビールで乾杯。屋外の広場で、翌朝登頂予定の山頂を仰ぎながら、暫しの休憩を楽しむ。極楽、極楽の心境。

三日目。五時半、朝食。頂上に向かう。人波が続く。六時過ぎに白山山群の最高峰御前峰(二、七〇二米)に登頂、宿願を果たす。頂上よりの眺望を楽しみにしていたが、残念ながら朝霧に天下の名峰は望み得なかった。その後「御岳友」はお池めぐりに向かったが、ご老体は大事を取って再び表参道を下った。宿泊所を身を整え、今日の宿泊地平

瀬温泉目指してお山を降りた。大白川までは平瀬道の山道で先ずは弥陀ヶ原の平坦道を通って石川・岐阜の県境へ。そこから大倉尾根の急峻な坂道が白水湖ダムまで続く。道は、絶景の中を真一文字に進む。御前峰を中心とした諸峰を眺めながらの下り一方の路で息切れは無かったが、体力の限界が脚が出なくなった。やっど、露天風呂に浸かりビールを頂く。美林を吹き抜ける白山下ろしの風に疲れを癒し、予約した車で平瀬温泉の民宿宿に向かう。

四日目。世界遺産の白川郷を見学。高山、名古屋を経て帰高、この山旅を終えた。

の心配をするなら、不経済な牛や豚を食うのをやめ、米や、芋や、豆を食べる。極楽トンボと云われようがプラス思考。自然農法で作った野菜を食べ、気ままに過ごす。これが最近悟った私の健康法である(青年部・島本)

高退協から、本年度の米寿のお祝いを贈っていた平野日出男さんと寺村芳さんから次のようなお札の手紙が届けられましたのでご紹介します。

この度は米寿のご祝儀を頂き、有難うございます。思いがけないご祝儀、皆様のお心遣い辱なく、心からお礼申し上げます。

今改めて生かされている事の有難さを痛感しております。八十年と言えば、過ぎてみれば短いようですが、長い年月でした。その間には大事小事取り混せて色々な事がありました。私の子年時代からですと、日本は昭和六年に起こった満州事変からは戦争の連続、田舎の村まで戦争の色、少年の頃遊んでいた九州中部の田舎でも、駅頭で「祝出征」と書いた襷をかけた若者を送り、遺骨の入った白木の箱を抱いた兵士を迎える日々が度々でした。

そういうするうちに世界をあげての太平洋戦争、猫も杓子も戦争々々、一木一草まで戦いの風になびき、ついには自分自身も出征兵士になり、戦地へ送られ、拳銃の果てにシベリア送り、何とか命拾いはしましたが、多感な若い頃は戦いの時代でした。後員後はたまたま縁あって教育の仕事を探かり、高教組県教組、同年輩の高退協の皆様には殊更励まされ、支えられて今日を迎えることができました。それに、この度の御祝儀誠に辱なく存じます。皆様諸先生方、どうぞお体を大切になさって、いつまでもお元気で御活躍なさいます様心からお祈りします。乱筆ではありますが、心からお礼申し上げます。平野 祥

俳句

六月二十一日 土曜

長浜、若宮八幡宮・桂浜

合田 青幹

夏草や土佐の祖神を祀る宮

緑陰を抜き出て龍馬像高し

吉本 伸秋

参道の一直線や振り花

梅雨ばれや神名備の木々

句い立つ

中内 英明

古城址の降らす楊梅礫かな

二人居るだけの既の汀かな

中内みち代

出鱈目の官万縁に鎮もれる

赤米の青田の育てる御田

小笠原さちを

馬防柵裾を隠して草茂る

卯波立つ浜に拾うや五色石

七月十九日 土曜

中土佐町 大野見

合田 青幹

句碑の庭七春秋や苔の花

二部屋の十六畳や句座涼し

中内英明

七夕の様な一会の句座重ね

源流の瀬音片辺の端居かな

中内みち代

年々の緑陰深む師弟句碑

源流の瀬音に揺るる合歓の花

小笠原さちを

大志てふ校訓涼し石に彫る

四万十へ青田の風の傾れ込む

川柳

雑草の抄 小澤幸泉

戦いの合図が響く朝の床

地獄絵を再び描く原爆忌

中継所設けわが家へ重い足

もうひとつふくらむ夢を追いかける

三十余年お世話みのらす新興地

結び目を結び直して高齢期

悪友の気まぐれ今日もやってくる

酒焼けの思い出浮かぶ亡父の顔

今年もはやなかばを過ぎ、木々のみどりもますます色こい季節となりました。日頃は何かとお世話さまになっております。

本日は思いがけなく米寿のお祝いを原先生がお届け下さり恐縮しております。おかげさまで何とか元気で過ごしておりますが、年寄りがますます住みにくい世の中になりました。子供にとつても安全な世の中とはいえなくなりまして。このような現状を打破し、平和な世の中になりますよう心より願っております。寺村 芳



計算をして雑談の中に居り

妻の絵に夫の願い抜けている

短歌

歌人のふみ 榊原忠彦

鎌倉暮らしならではの著書いきいきと名歌かずかず教えられたり(尾崎左永子・写真原田寛)著「鎌倉百人一首」を歩く」を読む 三首

鎌倉に住みたしとさえ誘はる三方の山海風の街

ゆたかなる詞藻で綴る神社仏閣多くの谷詠みし歌人の史

十七歳で死にし教え子

山本晶子

生きてあらば四十歳の教え子の命日に小夏提げて参りぬ  
同乗せし恋人三年一日も欠かさず拝みに来たりしという

「もうどうぞ忘れて新たな人生を歩んで下さい」母言いしとう

相撲ニニ知識 (八十四)

林 勤

相撲協会八十年を振り返る

八、昭和五十一年(五十五年)

○この間は、横綱輪島と北の湖の輪湖時代である。(この間の三十場所の中、優勝は北の湖が五連覇を含む十六回、輪島七回、その他三人で七回である)

昭和五十一年

○三月 新弟子八十三人(戦後最多)

昭和五十三年

○三月 長岡(本県出身)後の大関朝潮)初土俵。

○七月 二代目若乃花56代横綱に(因みに、若乃花は、先般大麻所持で解雇された若ノ鵬の親方である)

○十一月 北の湖は今年一月場所から九月場所まで五場所連続優勝、十一月場所年間最多八十二勝。

昭和五十四年

○九月 三重ノ海は三十一才五月で57代横綱に。

昭和五十五年

○三月 増位山大関に昇進。初の親子大関誕生。

○十一月 横綱三重ノ海引退。

☆☆ 会員名簿訂正のお願い ☆☆

転居により次の方の住居が変わりました。

小海 節美 (15ページ)

〒678-0239

兵庫県赤穂市加里屋2164-5

アクアヒル303

勤評闘争六・二六 五十周年

年記念集會にて

叶岡 淑子

「勤評は戦争への一里塚」と七〇〇〇人の集いしあの夏

時を越え老いと若きと一堂に闘いのバトンは引き継がれたり

人生をあの体験が変えしというドラマ次つき語られ止まず